

第3回 長岡市・川口町任意合併協議会

会 議 録

第3回長岡市・川口町任意合併協議会会議録

1. 会議を開催した日時及び場所

- ・日時 平成21年7月13日(月)午前9時30分
- ・場所 長岡市役所 大会議室

2. 会議出席委員の氏名

長岡市委員

森 民夫 小野塚 進 五井 文雄 酒井 正春
丸山 智 桜井カツエ

川口町委員

岡村 讓 北村 清隆 古田島 祐豊 石坂 勝正
眞島 勝治 山崎 清一

新潟県

山岸 守 関谷 政友

学識経験者

矢島 善信 鯉江 康正

以上 16名

(欠席委員の氏名)

0名

3. 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

第3回 長岡市・川口町任意合併協議会

事務局（金子）

委員の皆様には、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

定刻少し前でございますが、皆さんお集まりでございますので、ただいまから第3回長岡市・川口町任意合併協議会を開催させていただきます。私は、事務局の金子と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、本日の会議の成立についてご報告をいたします。

本日は、委員全員の御出席をいただいておりますので、規約に基づきまして会議が成立していることをご報告いたします。

次に、本日の議事に関係いたします資料の確認をお願いしたいと思います。まず、次第でございます。それから資料ナンバー1、合併効果についてというA3一枚物の資料がございます。それから、資料ナンバー2が合併効果についてというA4判のホチキスどめのものでございます。それから、資料ナンバー3が川口温泉とホテルサンローラについてというA3一枚物でございます。それから、参考資料といたしまして、先週実施いたしました長岡市と川口町の住民相互訪問で出た主な意見を一枚物として配付いたしております。また、今回は委員の皆様には長岡市の暮らしのガイドを配付いたしております。資料は、以上でございます。

それでは、この後の議事進行につきましては、森会長からお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

議長（森 民夫）

それでは、早速でございますが、議題に移りたいと思います。

本日は、合併効果ということを中心に議論をお願いしたいと思います。事務局から一通り説明をしていただきまして、その後に皆さんからご意見をいただきます。

事務局から説明をお願いいたします。

事務局（近藤）

では、合併効果につきまして、資料ナンバー1と、2のほうをもとにご説明をさせていただきます。

ではまず、合併による効果といたしまして、1番目として財政の節減効果、それから2番目として行政サービスの効果、そして3番目としてまちづくりにおける効果というものが挙げられます。財政の節減効果の最大のものとしまして、人件費の節減があります。これは、特別職の廃止、それから議員、各種委員の削減、そして管理部門の本庁への統合などによる職員20人程度の削減で、年間約2億円の削減が可能と考えております。その節減の根拠といたしまして、人口や職員規模が似ておりました旧和島村を参考にさせていただきました。それで、資料ナンバー2の1ページと2ページ目のほうにその試算の概要を記載させていただいております。この年間2億円の削減額といいますのは、今後新長岡市のまちづくりの財源として利用できるほかに、町の正味の借入金約20億円ございますので、その返済の財源としても考えることができると思います。

続きまして、行政サービスの効果なんですけれども、市民が利用可能な窓口が増えることになります。川口も含めて長岡市民となれば、本庁、支所いずれの窓口でも各種証明や戸籍、健康保険等の手続などが可能になります。お配りした冊子「暮らしのガイド」の4ページ目のところなんですけれども、本庁、支所以外で休日、夜間でも各種証明書の発行や届け出ができる場所を掲載してございます。市民サービスセンターといったところです。これでいきますと、川口の人が例えば休日に長岡へ買い物に来て、そのついでに長岡市内で住民票の写しを発行してもらおうということができるようになります。ほかに前回の合併では、中小企業の融資制度、それから妊産婦医療費助成、あるいは福祉タクシー制度などに関しまして、旧市町村でサービス水準が上がっております。川口の場合も相対的にサービス水準が上がることが見込まれます。また、現在の川口町役場にはおりませんが、土木技術職員ですとか、それから建築技師などの専門職ですとか、あるいは防災を専門に取り扱う、長岡の危機管理防災本部などの専任組織による高度なサービスも受けられることとなります。

続きまして、まちづくりにおける効果です。まちづくりにおける効果としまして、川口の地域資源が加わることで、長岡の魅力が増すことが期待されます。それで、まちづくりの効果は後ろのほうにパワーポイントのスライドも用意しましたので、資料ナンバー2のほうとあわせてご覧いただきたいと思います。例えば温泉やホテル、それからやな場、道の駅などでは、長岡市全体での誘客方法ですとか、これら

を組み入れた新たな観光ルートの開発などが考えられるようになればと考えております。それから、川口まつりですけれども、長岡市から米百俵まつりの時代行列ですとか、あるいはよさこいソーランなどが参加することもおもしろいのではないかなというふうに思います。

それから、今もうやっているのかもしれませんが、雪洞火ぼたる祭と、それから長岡市内で同じ時期に各地で雪祭りというのをやっておりますので、それらのタイアップというのも非常に有効ではないかなと考えております。

それから、中越大震災の震源地、震央が市域に入ること、山古志などとともに、震災からの創造的復興を一体的に進めることもできます。長岡と川口には数多くの復興関連団体がありますので、合併すれば日本有数の復興のネットワークができるのではないかなと思いますし、長岡、川口、それから小千谷で連携して、観光ルートや道路の整備などが進められる可能性もあると思います。

それから、現在既にもう行われているんですけれども、長岡市の子育て真っ最中の親御さんと、木沢集落の皆さんの交流があったり、あるいは大手通りの歩行者天国で川口町のアユや野菜を販売するようになったりしております。ほかにも川口と山古志や小国などとの交流が続けられております。

次に、先行合併における市民力、地域力の活用事例をご紹介します。合併した各地域の和太鼓団体が集まって、越後長岡・和太鼓祭を開催しておりますが、これは、ただ集まって演奏するというだけでなく、集まった団体共通の楽曲をつくり、全員で演奏しております。ほかにも伝統芸能の披露ですとか、特産品の販売を行う越後長岡・暮らし文化の祭典の開催や、各地域の宝の再発見を目的とした「とっておきの長岡まちめぐり」も実施しております。

一番最後に、合併により地域が輝いた例というのをご紹介します。和島の島崎地区にあるはちすば通りというところなんですけれども、この通りは良寛が晩年を過ごした地でありまして、終えんの場所でもあります。通り一帯の家屋は、外壁に雨板という木の板を使いまして、それが良寛の暮らしした当時をしのばせる町並みになっております。このはちすば通りの風情ある町並みをそのままにしたまちづくりを行うために、沿線住民が中心となり、まちづくり協議会をつくりまして、ワークショップやイベントなどのまちづくり活動を展開しております。現在国や市の支援を受けながら、石畳と雨板の町並み整備を進めております。

締めくくりとしまして、川口との合併は中越地域全体の発展のもととなる40万人都市の実現のための着実な一歩となることも合併効果として挙げられると思います。

以上で説明は終わります。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に基づきまして、皆さんからご意見をいただきたいと思いますが、ちょっと1点気になったことを私から申し上げますと、財政の節減効果のところですが、町長、教育長、議員さんは、即効果が出るのはわかるんですけども、職員がいきなり20人減るのかどうかということは気にされるんじゃないでしょうか。川口町の職員にしてみれば、いきなり20人クビになるのではないかと、いうところだけちょっと説明をしてください。

事務局（近藤）

いきなり20人川口町の職員がいなくなるというわけではなくて、当然支所として行う仕事と、それから本庁に統合して行うことができる仕事というのがございます。本庁に統合して行うということは、それだけ人員が必要なくなるということで、それらの職員が本庁の仕事をするかと考えております。それから一度に、例えば現在の70数名の方が急に50名台になるというわけではなくて、段階的に本庁へ業務を統合することによって、支所での人数が減っていくというふうに考えております。

議長（森 民夫）

そうすると、一方ですぐには効果が出ないような感じにもなるわけです。だけど、それがまた、そうでもないんだろうと思うんです。つまり2,700人いる職員全体の中で吸収していくということでしょう。だから、長岡市全体で新たな採用をするときに、その採用を減らしたりして、効果は1、2年で出てくると見ていいわけでしょう。私が言いたかったことは、効果は別に5年、10年かかるんでなくて、1、2年で出てくるけども、20人に即退職してもらおうというわけではないということだけ確認してもらえばいいです。

長岡市地域政策監（山崎）

今後職員の身分の取り扱いというのが協議会の議題になるわけですが、前例を見ますと、合併する市町村の職員は全員長岡市の職員になっていただいでい

ます。

それともう一つ、業務量が変わります。例えば町で議会の事務局とか、それから人事とか、そういったお仕事があるわけですが、それは本庁に移します。したがって、業務量が減る割合に応じて職員を減らすということで、無理やり減らすということではなくて、あくまで業務量に応じて減らします。

それと恐らく20人内外の職員が本庁に移ってこられるということになりますと、当然その人間に余力が出ますので、本庁で採用しようと思っていた枠を減らすとか、そういったことで適正な総人数の管理は十分にやります。したがって、早急にこの効果は出てくるものと期待しております。

議長（森 民夫）

その辺だけ確認しておいたほうがいいということで、特に今私が言ったことでご質問ありますか。

委員（古田島 祐豊）

資料の2ページのところに和島支所との比較が出ているんですけども、人口が、川口町は5,100人、和島村は4,991人、合併による職員の削減数が和島は21人で、川口は20人程度と、最終的には35人ぐらいになるのは、今の説明でわかりました。また、これからの話になってくるかと思えますけども、それらは今度、業務内容というような形で、人員体制はどのようにお考えになっているのか。支所として残した段階で、どういうふうになってくるのかというのを、もう少し具体的にお答えできればありがたいんですが。

長岡市総務部長（高橋）

長岡市の総務部長、高橋でございます。

まず、現在町の役場でやっている業務については、基本的に支所でやっていただくという考え方でおります。ただ、先ほど申したとおり、直接市民の方にご迷惑をかけないような仕事の内容というのが今の役場にはいっぱいあるわけでございます。そういったものについては、本庁のほうで集約をして事務をさせていただきますので、結果として市民の方にご迷惑をかけないような形で支所の人数といたしますか、役場の人数を減らすことが可能であると。これは、1次合併、2次合併を経て、段階的に職員数を支所から減らしてきておりますが、それを十分に検証した結果、サービスを低下させないでできるという前提で出した人数でございますので、ご安

心をいただきたいと思います。

議長（森 民夫）

1番の財政節減効果については、このくらいでよろしいですか。

どうぞ。

委員（鯉江 康正）

前回財政のことについてかなり詳細に私のほうから質問させていただきまして、それに対して非常に細かい資料をいただいてありがとうございました。私が見たところ、後で出てくる温泉とか、ホテルという問題は若干残るかと思いますが、財政の削減についてはそれほど無理な計画をされていないというふうに感じましたので、ここでひとつご報告をさせていただきたいと思います。

それと、先ほどの職員の減少なんですが、要は川口町がもともとやられてきたことは、退職者を補充しないという方法で減らしてきているんです。多分、市が言われているのは、今後も長岡の職員だって退職するわけです。そうすると、その分で補充して、何も川口町の職員だけを狙い撃ちして退職にするわけではないというふうにご理解したほうがいいんじゃないかと思います。

以上です。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

よろしゅうございますか。また、この辺はむしろ川口町さん側からいろいろ細かい疑問点があれば、また、事務局にお問い合わせ願えればというふうに思います。

1番は、そういうことではありますが、2番、3番で少し前向きなほうの効果の話に移りたいと思いますが、何かご質問あるいはご意見ございませんでしょうか。

委員（古田島 祐豊）

まちづくりの効果のことで、公社の件が出ているんですけども、私たちは、この間議会と行政側との話し合いで、これを民営化していこうと、こういう話し合いをしました。民営化に私たちは賛成ですが、これらも川口町の財産です。一番大切な財産ですので、それが民営化ということになると、会社に譲渡して、経営権もそちらに移るということになってしまうと、長岡市にとってもまた、不利益な面も出てくるんじゃないかと思うので、私たちは有志で今回譲渡する町の株を買って、私た

ちが運営をまかっただけじゃないかというような線で話が出ております。それと同時にまた、健康増進だとかと、そういうような意味で、これはまた、金がかかるわけですので、その辺で長岡市も応分に負担していただかなければならないんじゃないかと、こう思っております。その辺をどのようにお考えになれるかをちょっとお聞きしたいと、こう思います。

議長（森 民夫）

その前に、矢島さんひとつお願いします。

委員（矢島 善信）

先日川口町さんのほうへお邪魔しまして、施設を拝見させていただきました。非常に立派な施設でございまして、先回私は民営化というところの話を見せてもらったんですが、なかなか1社であれだけの施設を、保守を含めて経営は困難であろうという考えでおります。見させてもらった感想でございます。ですので、やっぱり今おっしゃいましたように、やはりここは市なり、町なりがある程度の介入をしていかなきゃならないなというふうに考えております。

長岡市地域政策監（山崎）

先般この情報が新潟日報で流れたんですが、ちょっと誤解があったので、ひとつだけ確認しておきたいと思うんですけども、民間活力の導入というのは、あくまで管理運営を委託しております、えちご川口農業振興公社についての民間活力の導入ということでありまして、ホテルとか、温泉そのものについては、川口町さんのお話ですと、まだ引き続き町の財産としてやっていこうということです。あくまで、経営のノウハウを専門家である民間の方にお願ひしたほうがいいんじゃないかということをお聞きしておりますので、長岡市としても、それはまことに納得できることじゃないかなというふうに思っております。

委員（五井 文雄）

長岡の議会のほうも、やはり問題点の中心はホテルの問題が多いわけでありまして、我々も説明を受けていると、今の経営の中で黒字化がなされてきている。それで、公社についての民営化というのが今打ち出されているんだけど、長岡市と合併を目前にした、今ではなくて、やっぱり大きな視点の中で長岡と合併してみても、公社のありようがどうかという議論をされたほうがいいのではないかと。今の段階でやられると、合併してから長岡側の意見が入らないというのは大変失礼な言い方だ

けど、ここでちょっと動かされるのはいかがなものかな、というふうに私はちょっと懸念をしているんです。議会の中でもこの問題はちょっとナイーブな問題として残っているものですから、ちょっと触れさせていただきました。

議長（森 民夫）

今の点について何かご意見ございませんか。

今のご趣旨は、合併前に民営化すると、逆に長岡市側があまり経営にタッチできなくなるのではないかという意味合いですか。

委員（五井 文雄）

大きな視野で見直すのは、今ここでしなくても良いのではないかな。経営も安定していると思っているものだから。

議長（森 民夫）

その辺、矢島さん何かご意見ございませんか。

委員（矢島 善信）

あれだけの資源なので、合併をしてから、皆さんでお話し合いいただいて、どういう方向で進めるか検討した方が良いのではないのでしょうか。

議長（森 民夫）

例えばもし完全民営化が可能であれば、1社で引き受けるのは確かに難しいと思うので、仮定の話として、完全な民営化ならば、マイナス要因はゼロになります。その後あまり経常経費を心配しなくてよくなるという面はあるけれども、一步踏み込んで、もっと有効に活用できないかという意味合いから考えれば、五井議長のおっしゃるとおりかなという、そういうことですか。あんなに立派なホテルがあるのを知っている長岡市民はむしろ少ないような気がしますから。

委員（矢島 善信）

何も知らないでしゃべっていました。行ってみると素晴らしいなと。これだけの観光資源を有効活用するためには、やっぱり行政の力が少しは入らないと、というふうに感じました。

議長（森 民夫）

何か28万人でもって、全体で有効活用するようなことを考えてみる余地もあるかもしれないということですか。

どうぞ。

委員（鯉江 康正）

先ほど、はちすば通りの整備の話がちょっと出ていたんですが、私も学生を使って、まちの駅をいろいろ調査しているんです。はちすば通りって、確かに通りはすごく雰囲気があっていいんです。ただ、あそこが今あれだけ盛り上がっているのは、もてなし家さん、おみそ屋さん、和ろうそくのお店の扇屋さんと3軒のまちの駅がありまして、特にもてなし家さんの駅長である指定管理者のNPO法人和島夢来考房の山田さんが、非常に熱心にやられているんです。ですから町おこしとか、ホテルとか、温泉施設でも、やはりキーパーソンが非常に大事だと思うんです。だから、そういう方をどういうふうにつくっていくのかというのが多分この施設が成功するかどうかのキーポイントだと思いますので、その辺も含めていずれ考えていく必要があるんじゃないかと思います。

議長（森 民夫）

キーパーソンは、必ずしも川口の方である必要はないということになりますか。いや、幅広く人材を集めた方が効果が高いということになりますね。あと私の印象で言うと、和島の場合は案外地域の皆さんがあそこの価値に気づいておられなくて、外から行った私のような人間のほうが価値が高いというふうに気がついたという面がありまして、おもしろいことに地域資源というのは、地域の皆さんが気づいていないということが結構あるんです。さっきのスライドに出てきたものを説明してください。あれはそういう趣旨だったね。

事務局（金子）

長岡市は、1次合併、2次合併で10市町村が1つの地域になったわけですがけれども、やはりお互いその地域にどういう魅力があるのかというのは、なかなか合併した当初はわからなかったと。それで、それぞれのところで、とにかく合併したほかの地域の人から来ていただいて、地域をよく知ってもらおう。その基本はもてなしというようなことで、今年は1地域2回ずつ交流事業を行うことになっております。ですので、1回20人くらい、あまり多いと交流ができない。観光で40人、50人で見せるわけじゃなくて、来ていただいて、その地のものを料理して食べていただいて、これがよかったね、あれがよかったね、今度また、来たいね、というような交流をやることを目的にしております。市のほうからとしては、まちめぐり実行委員会のほうに1回当たり10万円ぐらいの助成金が出るようになってはいますが、それは

もちろんそれで足りるわけではございませんので、地域の方々が一生懸命食材を持ってくる、あるいは地域の名所旧跡を案内する。そういった中で、自分の地域はこれだけボランティアガイドがいるよというようなことがお互い勉強になっております。ですので、和島地域あたりからすると、合併をしたことによって、一気に28万人の商圈に膨らんだと、そんな感覚をお持ちでございます。

議長（森 民夫）

ありがとうございます。

どうぞ、岡村町長。

委員（岡村 譲）

先ほどから温泉施設あるいはホテル施設、お褒めいただきましてありがとうございます。

先ほど山崎地域政策監がおっしゃったように、あの施設そのものを民営化というか、売却することではないというのを、ひとつ確認をいただきたいということであります。指定管理を受けている第三セクターが、第三セクターで本当に住民サービスができるのか、将来的に経営安定ができるのかということで、私は民間の経営感覚にたけた人を経営に参画していただきたいということで進めているわけでありませう。あわせて町民の方々の1つの宝といいますか、川口地内の経済の活性化の循環の1つの拠点でもありますので、川口町民からも一部経営に参加いただいて、そして行政も100%撤退ということではなくて、一緒になって地域おこしができるようにということで、行政も入ります。

私が今、社長になっているんですが、名前だけで、本当にそれで経営責任をとられるかと言われると、非常に言葉が出ない状況でありまして、働いている従業員に対しても非常に申しわけないということでもあります。そういう部分では民間の企業感覚を持っている方々から参加をいただいて、サービス密着の経営ができるようにということで、今予定をしております。町民に株を一部お分けし、企業からは現在2社から申し出が来ております。現在、そんなところを調整しているところではありますが、先ほど五井議長さんから、そんなのは長岡市になってから、もっと大きな視点でしたほうがいいじゃないかというご意見もありました。大変ありがたい話でありますので、その辺また、今後調整といいますか、詰めさせていただきたいなと思います。一応現状報告ということで。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

詳しい話は北村委員から説明をお願いします。

委員（北村 清隆）

では、報告事項を私のほうから説明させていただいてよろしいでしょうか。

まちづくりにおける効果という中で、川口温泉とホテルサンローラについて話題ののってまいりました。お手元にお配りしてあります資料ナンバー3に基づきまして、若干説明をさせていただきたいと思います。

先回の任意協議会の中で、今後の経営改善についてということで宿題をいただいております。今までの状況を整理したものでございますので、ご確認をいただきたいと思います。

まず、左側のページでございます。目的、整備状況、それから町と公社の関係については、記載したとおりでございますので、ご覧いただければと思います。一番問題となっておりました経営状況の改善につきまして、右側に記載をさせていただいております。利用者数、それから経営状況について集計をしております。全施設のオープンは、平成19年12月でございましたので、実質的に年間営業できたのは平成20年からとなります。平成19年度のホテルの収支が約4,900万円の赤字となっておりますが、こちらの金額は開業当時の備品やあるいは什器の整備、こういったものを含んでおりますので、4,900万円の赤字ということでございます。平成20年につきましては、通年営業を行った結果、農業振興公社全体としての収支が約3,500万円の黒字となっております。町負担額につきましては、直営で運営しておりました平成17年、18年は、約1億2,000万円でしたが、指定管理者制度を導入いたしました平成19年度から町負担額は減少しております。平成19年度が7,000万円、平成20年度は4,290万円となっております。なお、平成20年度の4,290万円につきましては、利用料金の増加に伴いまして、公社から町に納付された金額210万円を差し引いた実負担額で集計をさせていただきました。

これらの経営改善の取り組みについて5番で整理をさせていただいております。このほかの経営改善の取り組みについて、記載してございませんが、紹介をさせていただきたいと思います。まず1つ目といたしまして、要望の多い和室の設置をさせていただきました。それから、2つ目といたしまして、モニター宿泊によるニー

ズの調査、それから3つ目といたしまして、季節ごとのメニュー、プランの設定による誘客の拡大、それからホテル営業経験者あるいは経理経験者の雇い入れ、さらには旅行代理店とも積極的な連携を模索しているところでございます。また、温泉につきましても、夏季夜間営業といたしまして、1時間の延長を行うこととしております。これらの取り組みによりまして、おかげさまで旅行代理店からは、9月から11月の間で全34部屋のうち18部屋をツアー用として仮予約をいただいているという状況でございます。また、この秋に開催されます新潟国体の関係役員の予約をいただいております、客室の約60%の仮予約をいただいているという状況でございます。

それから、先般実施していただいた住民との相互交流の中で、意見交換をさせていただきました。この中で、参加者からもご指摘をいただいております、接客の改善に向けた取り組みも今後予定をしているところでございます。

では、あと実際何人来ればホテルの収支が合うんだという部分を試算をさせていただいております。温泉部分につきましては、指定管理料を支払っておりますが、ホテルにつきましては指定管理料を支出しておりません。ホテルについて、平成20年度実績で宿泊者数が約8,200名、部屋の稼働率で申しますと、32%でございました。計算いたしますと、あと毎月20人、10部屋のご利用をいただくと黒字になるという試算をさせていただいております。稼働率にしてあと1%上がると収支バランスがとれるという状況でございます。温泉につきましては、指定管理料がないものとして試算をしてみますと、月約2,200人、1日当たり75人お越しいただくと黒字になるという試算でございます。75人ですので、大型バス2台お越しいただくと黒字になると、そういう試算をさせていただいております。とりあえずこんなところで説明を終わらせていただきます。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

今の説明につきまして、何かご感想なり、ご意見ございませんでしょうか。

委員（古田島 祐豊）

総務課長の説明があつたんですけれども、この間長岡市と私たちのほうとの相互訪問で、20人ぐらいずつで川口町の住民が長岡市の各支所を回ったり、長岡市の市民が川口町の施設を視察したという話をお伺いしました。やはり長岡市の市民で川

口町を知らない人が非常にたくさんいらっしゃるんです。古民家や温泉は、こんなのがあったのかとか、道の駅あぐりの里は、国道沿いにあるからわかるけど、温泉施設というものが全く遠い存在のようになっています。それで支配人をお願いして、できれば長岡市へ無料バスでもよこしてもらって、そして小千谷市も兼ねて送迎をしていただければ、もっと誘客ができるんじゃないかと思うんですが、長岡市からの誘客を、とにかく大勢人を寄せるということで、その辺の宣伝効果をひとつよろしくお願ひしたいと、こう思っているんですけども。

議長（森 民夫）

はい、わかりました。

何かございませんか、今のホテルの説明につきまして。

委員（酒井 正春）

長岡市議会でもちょっと研究委員会を2回開催させていただきました。大きな議題の的はやっぱりこのホテル、温泉施設等の関連だと思っています。いろいろな資料や、委員のほうからのお願いなども上がっております。今民間活力の話もいただきました。我々の議論は、既存の資料に基づいて、今までいただいた説明に基づいて今の川口町さんを判断して、そしていろいろな議論を重ねております。ここは、また一歩進んでいってしまいますと、やっぱり我々もその議論を追いかけなければいけないということになります。また、振り出しから、階段がなかなか上がれないという現状があるんだろうと思うんです。ですから、ある程度やっぱり凍結するなり、合併のきちんとした議論をまずしていかなきゃいけない。今現在の川口町で長岡市とどういう合併ができるんだろうかということをやっていかないと、さっきうちの議長が言われましたけれども、やっぱり合併を大きく見て、そしてこのときこうしよう、ああしようというスタンスは非常に私もとるべき行動だと思っています。今の段階でいろんな階段を上がってしまいますと、我々もその段階についていかなければいけないということになりますので、その辺はやっぱりもう少し慎重にやっていただきたい。我々委員会をやっているほうとしても非常にまた、それに資料を加えていかなければいけなくなってしまうので、その辺だけちょっと慎重にお願いできればと思います。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

何かございますか、今の意見につきまして。

委員（岡村 譲）

ご意見尊重して。

議長（森 民夫）

五井委員からお願いいたします。

委員（五井 文雄）

それで、ホテルとその温泉の部分で、収支が改善されてきているということを私どもが説明を受けているわけです。それを大いに私どもも期待しているわけです。

今ここで公社に民間業者を入れると、また、運営主体が変わってくる。ところが、成功すればいいんだろうけれども、成功するかどうかわからない、私どもの説明では年々収支が改善されてきているという報告を受けているんで、大いに期待しているわけです。ですから、合併するまでそのままいって、そしてまた、合併した後こういう方法があるのではないか、これもいいのではないかという議論をすればいいと思う。何か合併する前にいじられてしまうと、収支が改善してきているのに、何かあるのではないかと、また、議会が振り出しに戻ってしまう。改善されてきたということは皆さん認識しておられて、これからも期待をしているんですが、その思いがあるもんですから、ちょっともう一度見させていただきたい。今委員長がおっしゃったのもその部分なんです。

議長（森 民夫）

どうもありがとうございました。

委員（岡村 譲）

よくわかりましたので。

議長（森 民夫）

少し議論を深めて、両者納得づくで考えていくほうが、いいような気が私もしますけども。

どうですか、丸山委員何かこの経営改革でものすごい劇的に効果が出ていますけども。

委員（丸山 智）

県外のお客って結構いるんですか。

委員（北村 清隆）

それにつきましては、温泉のほうはほとんど町外というふうに聞いているんですけど、ホテルのほうにつきましては、県外、県内の集客の率については、申しわけございません。手元にないものですから、はっきり申し上げられません。

委員（丸山 智）

先ほど話があったように、旅行会社を通じて、こんないい施設があるならもっと宣伝したほうが効果があるんじゃないですか。

委員（北村 清隆）

そうさせていただきたいと思います。先般も長岡市民の方がお越しになって、こんなものがあるの、こんなにまとまって施設があるのというふうに驚いていただいて、私どもは当然知っていただいているものだという思い込みの中で仕事をしておりましたので、非常に反省する部分でございました。

委員（丸山 智）

私も初めて知りましたんで、1回テストで宿泊に行ってみたいと思います。

議長（森 民夫）

ほかに何かご意見ございませんか。

桜井さん、何か。

委員（桜井 カツエ）

川口町には、非常にいい温泉があると思います。懐かしい話なんです、古民家のことでちょっと冗談を言ったんです。あの古民家どういうふうにするにしても、何にしても大変、さっさとあれ丘陵公園のあたりに持ってきたりすれば、効果があるんじゃないかなとか。例えば、桜井さん買ってと言われたときに、買ったらすぐ江口だんごさんに売るわとか言って。何がいいかというと、食べ物がありますと、とにかく人が行きます。温泉がいいということもそうですが、極めつけはやっぱり食べ物で、私なんかすごく食いしん坊ですから、食べ物でどうですかと。景色というのは、1日に何度も見に行きませんが、食べ物の場合は3食食べますから、結構行きます。古民家のあたりでおいしいおだんごとか、そういったもの、特にまた、イスを使って営業しますと非常に効率が悪くて、かなり流行っていたなと思っても、黒字になることはほとんどないそうです。格好はいいけども、なかなか黒字にならないそうです、回転数が少ないので。ですが、ケースの中に物を置いて販売する場合には、1ケースが100万、200万と働くそうです。こちらは、温泉がありますし、

とにかく人を寄せるのには、そういうおいしい食べ物があった方がいい。あそこの古民家においしいものがあつたりすると、温泉に泊まって古民家でご飯を食べて、非常にいいと思います。景色は、川口もいいけど、また、よそに行くともっといいところもいっぱいあります。そこで、何かおいしい物を考えて、ゼンマイの煮物だったら川口に行くとすごくおいしいとか、おそばだったらおいしいとか、そういう食べ物が人を引きつける第一の魅力だと思いますので、そんなふうにして活気が出たらいいなと思います。町が、市が大きくなることに非常に期待しています。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

どうぞ、鯉江先生。

委員（鯉江 康正）

今、施設単体でもうかるのかどうかという話をされていますけれども、これやられているのかもしれないんですが、例えば県外から来たお客さんというのは、どこへ回っているのかと。何に魅力を感じているのかとか、そういうものをきちっと整理されて、経済的波及効果もあるわけです。ホテルが単体で赤字でも、町でいっぱいお金を落としてくれればいいんで、そういう方法がないかとか、何かその辺を今すぐということではないにしても、いずれきちっと整理をされたほうがいいような気がしますので、ぜひお願いしたいと思います。

議長（森 民夫）

わかりました。

例えばやな場に来た方が泊まっているとか、長岡まつりの大花火大会のときに泊まっているか、とかということですか。

委員（鯉江 康正）

観光は非日常的ですから、例えば東京のほうとか都会から来る人って、冬の荒れた日本海って好きなんです。血わき、肉躍るんです。吹雪のような雪というのもやっぱり魅力を感じる。だれも歩いていない雪をすたすたと歩きたいと思っているんです、都会の人って。ですから、やっぱりそういうところの魅力起こしもやっぱり考えていくべきだと思うんですけど。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

委員（北村 清隆）

ホテルといたしましても、やはりおっしゃるようなそういったニーズ調査が必要なんだろうということで、今年モニター宿泊をさせていただいたところでございます。聞くところによりますと、リピーター率がこの近辺で一番多いというような報告を支配人からはいただいております。おっしゃるように何をもってその目的に来たのかというのを確認して、その魅力の部分をもっと出していくべきなんだろうなというのは、十分反省すべきかと思えます。

議長（森 民夫）

わかりました。

ほかに川口町さん側から何か今のことでございせんか。

はい、どうぞ。

委員（山崎 清一）

毎回温泉、ホテルが話題に上らないことがないんですけども、ぜひ機会を見て、この協議会を1回ホテルのほうで開催をしていただいで、皆さんから実際、また、よく見ていただければ、また、それなりにご理解をいただけるんじゃないかなと思いますので、ぜひひとつよろしくお願いします。

議長（森 民夫）

どうでしょうか、今のご意見。

距離の実感もありますし、1度ぐらいはどうでしょう。検討させてください。ありがとうございます。

委員（古田島 祐豊）

今、観光という面でお話しされているんですけども、先ほど出ましたになニーナという団体がちょうど私の地域の木沢集落というところと交流しているわけです。この間も法務局のわきのところへ来て、もちつきをしてお子さんたちと一緒に交流しました。それから、私の地域の学校が廃校になりましたので、それを利用して民宿をやろうと、こういうものを取り組んでいて、10月ごろから開設できるのではないかと。そうすると、都会からも足を運んでいただいで活性化を図っていきたい。

それから、大阪のほうからの関係なんですけども、かなり学生が来ています。それから長岡の造形大学や技術科学大学。その学生たちや先生と私たちが交流をさせていただいております。それから先ほど桜井さんから出ました古民家の件ですけども、

ずっと地震前までは食事も提供をしていたんです。そばを出したりして。お水がおいしいということで、木沢のほうのお水を持ってきてそれを調理に利用していたんですけども、とにかく冬が問題なんです。冬も一年中通してやれるということになれば効果があるんですけど、雪が多いものだから、それをどのように克服していったらいいかなというようなことで私たちも検討しているんです。長岡市になったら、また、その辺において、かなりの人数のアイデアが出てくると思いますので、考えておいていただければ非常にいい施設になるところ思っております。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

ほかにとにかく合併効果につきまして、ご意見ございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

議長（森 民夫）

それでは、先週の8日、9日に長岡市民と川口町民の相互訪問を行ったと聞いておりますが、その報告をお願いいたします。

事務局（近藤）

参考資料をおつけしましたが、7月8日の水曜日にまず長岡市民が川口側に行きまして、ホテル、温泉、それからやな場、古民家といった各種施設を見させていただきました。その市民というのは、市政モニターの皆さん15人で行っていただいております。その感想というのがその上のほうに書いてあるんですけども、特に飛び地につきましては、ほとんど皆さんが実際に行ってみると近いとか、あるいは22キロというのは気になるような距離ではないということをおっしゃってございました。

それから、7月9日の日は川口町側から今度は14名の方がいらっしやいまして、これは長岡の本庁に来られたわけではなくて、小国と越路の支所のほうに行きまして、支所になったらどういう業務があるのかと、あるいは除雪はどうかといったことを視察されたというふうに伺っております。この点に関して、川口町側の今日の委員の方もご参加されているようですので、もしも何か感想があればお聞かせいただきたいと思いますけれども。

委員（眞島 勝治）

それでは、私のほうから簡単ですが、参加させていただきましたことを説明させ

ていただきます。

9日の日ですが、合併地域の訪問ツアーに参加させていただきました。小国支所と越路支所の現地の視察でございます。各支所とも担当により、地域及び業務の内容を非常にわかりやすく説明をしていただきました。一方、私たちも今後合併がどのようなになるのか、各担当者の皆様からお話を聞きまして、非常に参考になったところでございます。また、支所になって5年が過ぎたということで、今の状況では全く住民の不安もないと。ましていろいろな行事あるいはイベント等についても、各支所で住民との話し合いでスムーズに行われておるということをお聞きいたしました。

一方、住民のアフターケアあるいは行政手続などについてお伺いしましたら、合併前と変わりなく、住民が本庁に行くことは、ほとんどないということでございます。私たちも合併にはいろいろよいところ、悪いところがあると思います。合併で地域の情報や文化、祭りなどの地域のよさを多くの人たちに発信できる、この住みよい生活を皆様方に発信ができていくということにつきまして、私どもが現地の訪問をさせていただいて、真から感じられたところです。

終わりに、川口町も長岡市の皆様からご理解をいただき、一日も早くこの合併をお願いしたいと、このように思っております。

雑駁ですが、説明を終わります。

議長（森 民夫）

ありがとうございました。

住民相互の訪問につきまして、何かご質問やご意見ございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

長岡市側はモニターの皆さん15人行っていただいたんですか。川口町側はどういう方だったですか。

委員（北村 清隆）

川口町側は、地区の総代の方ですとか、あるいは委員の方ですとか、地域団体の代表の方が中心です。

議長（森 民夫）

ほかに何かご質問ございませんか。よろしゅうございますか。

< 「はい」の声あり >

議長（森 民夫）

それでは、ないようでございますので、今日の議事はほぼ終わりましたが、これまで飛び地の問題と財政状況と、それから合併効果という大きな課題を3回にわたって整理してまいりまして、まだペンディングになっている事項もございますが、大まかにはある程度の整理がついたのではないかと思います。これ以上の議論になりますと、もう少し精緻な議論が必要になりますので、やはり合併の協議会でありますから、基本事項、これはもう形式があるんです。例えば市役所の位置とかの基本事項、それからあと具体的な制度調整の方針、福祉の政策とか、教育政策、それから時々話題になります商工会のこととか、そういう具体的な制度調整といったことも必要になると思います。そういう協議を進めながら、また、基本的な合併効果とか、そういうところにもう一度戻るといようなことで、とりあえずは、そちらの事務的なほうに入らせていただいたらどうかと思います。それにつきまして特にご意見ございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

私としては、一応飛び地、財政状況、合併効果について、最終結論が出たと思っておりますけれども、制度調整等を行いながら、また、フィードバックしていくということで考えたいと思いますが、よろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

議長（森 民夫）

それでは、そういうことで次回進めたいと思います。

以上で今日の協議事項、すべて終わりましたが、何か事務局から連絡事項ございませんでしょうか。

事務局（近藤）

今日のこの会議終了後に引き続き両首長、それから両議長さんで記者会見のほうを行いたいと思っておりますので、準備ができ次第開始させていただきます。よろしく願いいたします。

以上です。

議長（森 民夫）

それでは、ちょうど時間になりましたので、本日の会議は終了させていただきます。

どうもご協力ありがとうございました。